

令和6年度 岡山県 英語教育改善プラン

目標

児童が主体的に英語学習に取り組めるよう、各単元の学習到達目標を基に自分で学習計画を立て、自己の学びを振り返ることができるよう支援するとともに、中学校との接続や学びの連続を意識した指導を推進する。

○小学校と連携している（連携する予定）中学校の割合（R5：77.4%⇒R6：85%）

1. 目標に対する現状

①CAN-DOリストの活用

	R4	R5
公表	78.9%	83.9%

*単元を通した振り返りシートに、技能ごとの学習到達目標を能力記述文で明記し、児童と共有。

②ループリックを活用したパフォーマンス評価の実施

	R5	R6
実施	53.7%	49.5%
実施予定	38.6%	44.1%
合計	92.3%	93.6%

学習指導・生徒指導等の取組状況調査（県独自）

①小中連携の状況

	R4	R5
岡山県	65.2%	77.4%
全国	75.5%	82.8%

小中連携したカリキュラムや学習到達目標等を設定している学校の割合が、17.4%（全国値27.6%）と低く、小中の英語担当教員の連携が必要である。

2. 要因分析

①②単元終末のパフォーマンス評価において、児童が学習到達目標の達成に向けて、毎時間「自分のめあて」と「振り返り」を往還しながら主体的に学習を進めることができるように、研究校の振り返りシートをモデルとして、英語専科教員研修会で示した。



①小中の英語担当教員が、時間と場所を共有して、CAN-DOリストを作成したり、授業改善を進められる機会の提供が不足している。

・CAN-DOリストに小中連携の欄を設け、中学校の学習内容を確認する機会はあるものの、実際にどのような指導が行われているかについての理解が十分でない。

3. 目標を達成するための施策・事業

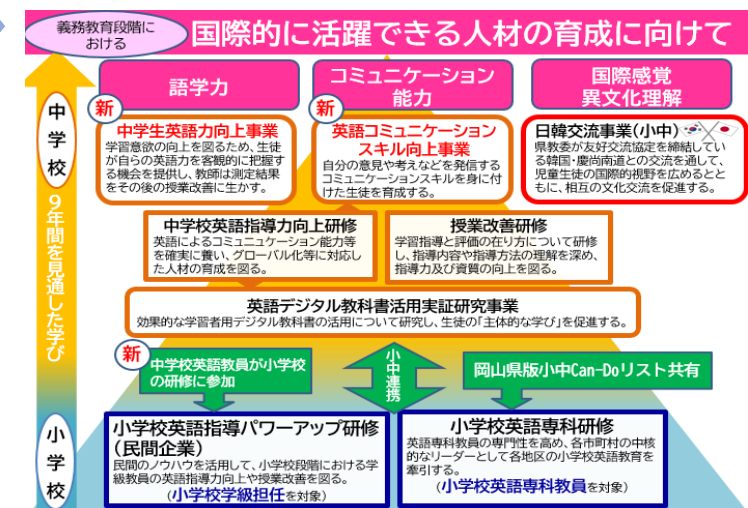
①②①に関して

・小学校英語専科教員の充実

小学校英語専科を対象に3日間の研修を行い、研究授業等を通して、学習指導要領に基づいた指導法について理解を深め、授業改善につなげる。

・小学校英語指導パワーアップ研修の充実

小学校教員の英語力向上及び英語指導力向上を図るとともに、小中連携の観点から中学校英語教員も研修対象に加え、研修内容に小中接続したカリキュラムの作成と協働授業を含めることで、校種間の相互理解を促進する。



未だ改善が必要な点

令和6年度 岡山県 英語教育改善プラン

目標

「自律した英語学習者」になるために、生徒自身が具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けた学びを自己調整できるよう支援するとともに、生徒に学びを委ねた授業を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 49.3% ⇒ R6 : 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①学習者用デジタル教科書の活用
※授業において、学習者用デジタル教科書を活用した割合

岡山県 (岡山市を除く。)	R4	R5
	57.4%	96.5%

②まとまりのある文章を「書くこと」
※学校生活の中から紹介したいものを取り上げ、それを説明する文章を書く

設問10	岡山県	全国との差
	7.7	+0.3

令和5年度全国学力学習状況調査

未だ改善が必要な点

①英語担当教員が、英語学習における生徒の内省を促し、生徒が自らの学びを振り返り、次の学びに生かす機会とサイクルを確立する必要がある。

②1単位時間の中での言語活動の割合は増加しているものの、単元を通して学ぶ/教えることについての課題が見られるため、言語活動が単発的なものになっている。

2. 要因分析

①研修会や研究授業後の協議会等において、「英語デジタル教科書活用実証研究事業」での研究校の取組（WILL-DORIST等）を積極的に発信することにより、学習者用デジタル教科書を含めたデジタル教材等の活用が進んだ。

②単元終末にルーブリックを活用したパフォーマンス評価を実施し、まとまりのある文章で自分の考えを書いたり、発表したりする活動を多く取り入れている成果と考える。

①生徒が英語学習を進める中で、定期的に自らの英語力と課題を客観的に把握し、具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けた学びを自己調整できる機会が不足している。

②1単位時間完結の授業形態が散見され、生徒自身に単元を通して学ぶ意識が醸成されておらず、単元終末に設定されている言語活動と毎時間の言語活動とのつながりを十分に意識できていない。

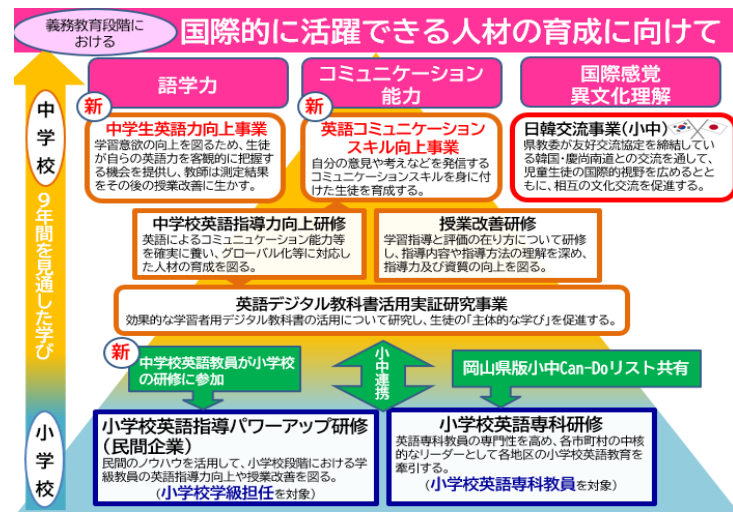
3. 目標を達成するための施策・事業

①岡山県中学生英語力向上事業

県内の中学3年生を対象に英検I B Aの受験機会を提供することにより、生徒自身が目標としたい受験級を設定し、その目標に向けて学習計画を立て、自己調整をしながら学習を進めることで自律した英語学習者の育成を図る。

②英語コミュニケーションスキル向上事業

複数の技能を統合的に活用し、自分の意見や考えなどを発信するコミュニケーションスキルを身に付けるために、生徒が単元をプロジェクト形式で学ぶ授業実践に取り組む。



令和6年度 岡山県 英語教育改善プラン

目標

生徒の発信力強化のための教員の英語指導力を向上させるとともに、授業改善を進めることにより、生徒の英語力の向上を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 51.9%、B1以上 20.1% ⇒ R6 : A2以上 60%、B1以上 22%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力

※CEFR A2レベル相当以上を達成した生徒の割合

R4	R5
51.6%	51.9%

②英語担当教員の英語力

※CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合

R4	R5
83.2%	90.1%

①CAN-DOリストの活用

※「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している学校の割合

R5	全国
56.3%	66.2%

②パフォーマンステストの実施

※パフォーマンステスト「話すこと」「書くこと」の両方を実施している割合

R5	全国
41.1%	49.8%

2. 要因分析

①②研修協力校による公開授業等を行い、生徒の実態に応じて4技能を重視した活動を重視した授業改善を進めたことにより、学校全体や個人的な自己研鑽の取組につながり、生徒や英語担当教員の英語力の割合が上昇した。

①県立高校全校に対してCAN-DOリストの作成を求めたことで、設定はできているものの、作成から時間が経過している学校もあり、活用については全国平均には届いておらず、更なる改善が求められる。

②研究協議会や教員研修において、パフォーマンステストの効果的な実施について継続的に働きかけているが、実施状況は全国平均の水準に達していない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①② 以下の各事業を行うことで、教員の英語指導力向上を一体的に進め、生徒の発信力強化につなげる。
- ・英語教育推進リーダーの活用
県内の英語教育推進リーダーが本県の英語教育の現状及び改善について協議を行い、所属校での実践・公開授業・研究協議等を通じて、各校への普及を行い、生徒の発信力強化に向けた個人的・組織的取組の改善を図る。
 - ・指導教諭等による公開授業
県立学校に配置された指導教諭が授業を公開し、授業改善のモデルを示すことで、効果的な授業研究を推進する。
 - ・外国語指導助手との協同授業推進研修会
 - ・外国語指導助手の指導力等向上研修
授業公開やワークショップ等を通じて、効果的なチーム・ティーチングに関する実践発表・研究協議を行う。
 - ・1人1台端末の効果的な活用
生徒の資質・能力の育成に資する1人1台端末環境を基盤とした授業づくりの好事例を普及する。また、個別最適な英語学習を充実させ、発信力をさらに強化するため、AIを用いた教材の効果的な活用についての研究を行う。

岡山県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		57	51.9	60		60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	20.1	22		25		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	80.1	90		90		95		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	41.1	55		60		65		70	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	80	56.3	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	76.1	90		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85	90.1	90		90		95		95	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	68.9	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		56	49.3	60		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		78	90.4	90		90		95		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		93	92.7	93		95		95		95	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	60	89.6	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	80	94.8	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		45	42.8	45		48		48		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		78	92.4	90		90		95		95	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.2	100		100		100		100	
		公表（％）	60	83.9	65		70		75		80	
		達成状況の把握（％）	80	92.1	85		90		95		100	